

小国高等学校 2学年「物理基礎」シラバス（5月分）

1 単元 熱 波

2 単元の目標	3 評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各原理や法則を理解している。 公式を簡単な数値計算に利用できる。 『比熱』や『波長』など物理用語の意味の説明ができる。 <p>【思考力，判断力，表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書で学習する各原理法則が、どのような自然現象と結びつきがあるか自分の言葉で表現できる。 題材となるモデルの文章から、どのような物理現象なのか抽出できる。 計算して出てきた解答から、何が言えるのかを考察できる。 <p>【学びに向かう力，人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然現象に関心を抱き、科学的に探求しようとする態度を持つことができる。 	<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 各原理や法則の内容が定着している。 公式を活用した計算ができる。 各物理用語の説明ができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自然現象を学習した原理や法則を用いて自分の言葉で表現できる。 問題演習において、題材となるモデルの文章から、必要な法則や公式を用いることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定箇所の学習を教科書や問題集、ICTを活用して学習できる。

※ 自宅学習期間に知識理解の定着を図り、授業再開後思考力の養成を図りたい。

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回	熱 教科書 115～123	1	・熱と温度	・確認テストの実施	①②
		2	・熱容量と比熱	・ワークブックの提出	③⑤
		3	・熱量の保存	・単元のまとめレポートの提出（授業で補足後）	④
第2回	波 教科書 137～157	3	・波を表す量 (振幅・波長・速さ) ・横波と縦波	・確認テストの実施 ・ワークブックの提出	①② ③⑤
		4	・媒質の振動と波		
		5	・波形を表すグラフと 振動を表すグラフ		
		6	・波の重ね合わせ	・単元のまとめレポート	④
		7	・自由端反射と固定端反射	の提出（授業で補足後）	

※ 登校日の進捗状況確認において⑥で評価する。